

市議団ニュース

医師数
全国ランキング
埼玉県は
人口10万人当たり
135人で最下位
全国平均は206人
(2006年)

看護師数
全国ランキング
埼玉県は
人口10万人当たり
696人で最下位
全国平均は1,035人

救急・医療の“過酷な現場”を救え！

久喜地区消防組合管内の現状

(救急車1台ごとの事案を集計)	2010年	2011年	2012年
救急から病院への受入れ照会をした平均回数	15回	18回	13回
1時間以上、救急車が現場に滞在した回数	45件	70件	80件

救急車が出動した事案別の回数

急病—4857	負傷—996	交通—843	転院搬送—718
労災—247	自損—89	加害—68	運動競技—57
火災—32	その他107		合計—8021件

※「転院搬送」とは、いったん救急車が搬送した医療機関から処置困難などさまざまな理由で別の医療機関に再度、搬送されるケースのこと。救急車は現在8台所有

36回、病院側に搬送を断られて患者さんが亡くなった救急問題を「もつと詳しく知らせてほしい」との声がわたしたちに多く寄せられました。『現状と課題』、そして「解決策」を特集しました。

救急たらい回し事件を考える（続報）
解決のカギは『いのち』最優先の姿勢

埼玉県は

「医療過疎地域」

左上のように埼玉県は、人口10万人当たりの医師看護師数が全国で最も少ない。その中でも利根医療圏内の医師数はかなり少ない。医師を育てる中長期の計画が必要であり、今、過酷な医療の現場で頑張っている人たちの労働条件も改善が急がれている。問題は、国、県、自治体がどれだけ危機意識を持って解決に踏み出すかどうかである。まさしく「待ったなし」だ。

佐賀県、奈良県で先進例！

救急医療管制システム

これら先進県では、救急隊がタブレット端末（iPad）に患者の症状を入力すると、症状に応じた医療機関の搬入候補を瞬時に表示。搬送決定が迅速にできるようになる。医療機関、消防本部もこの情報は共有する。3月の久喜地区消防議会で日本共産党議員は、埼玉県内の「医師・看護師不足」の対策強化と共に、このシステム導入を県に求めるよう提案した。



救急車の中から端末で医療機関へアクセス

市議団、県議団と埼玉県に要請しました



申し入れ書を県に手渡す県議団と久喜市議団

4月15日、市議団と県議団は県の保健医療部に対し、①利根地域の医療への積極的支援、②医療システム充実、③県立病院の救命救急機能の付与などを整備するよう申し入れをしました。その後、懇談では、医師の育成や医師の過重負担問題や新システム導入を急ぐこと。済生会病院に520万の補助することなどが確認されました。

栗橋済生会病院では、救急救命センターが完成していますが、現在医師が2名しか確保されず、本格的な機能が發揮されていません。医師不足がここでも問われています。



済生会栗橋病院

久喜市議会では平成24年11月議会で「国に医学部新設を求めることを求める意見書提出に関する請願書」が出されましたが賛成は、日本共産党と猪股議員のみで否決されています。渡辺昌代議員は請願に対する討論で「医師が誕生しても県内で働くとは限らない」などの反対討論に対し、これらの意見は、その後検討すべき課題、県民の願いは医師不足を解消することで10年後の先をしっかり見て、埼玉県の現状を改善すること。人の命を救うことに最善の努力をすることが今重要と賛成の立場から討論しています。

県議会においては、自民党も含め全会派一致して同主旨の請願が可決されています。

久喜市議会では
医学部新設を求める
意見書を否決！

日光街道の宿場町 栗橋宿文化財の活用を



石田としはる

栗橋地区は日光街道7番目の宿場町であり、日光街道の中で唯一「関所」が置かれるなど、歴史的にも重要な場所で貴重な資料が多く残されています。このような中、第1回日光街道宿場町サミットが平成24年7月7日に越谷にて開かれました。また、平成24年11月1日には日光歴史街道活性化首長サミットが栃木県日光市にて開催をされました。街道沿いの歴史資源を生かして一体で集客することをうたった共同宣言が採択されています。近隣の首長がそろって参加する中、久喜市も参加すべきではなかったか、市の姿勢を問いました。

これに対して市は、「参加市町の動向を確認しながら、時間をかけて地元機運を醸成し、参加に向けて準備を進めてまいりたい」ととどまりました。久喜市総合振興計画でも、久喜市は貴重な文化財が多数あり地域の活性化に役立てていくことが必要としています。

サミットなど積極的に参加し、各地域の経験を聞く中で、文化財を地域の活性化に役立つ手立ても見えてくるのではないのでしょうか。

今、栗橋では、「日光街道 栗橋関所・栗橋宿を元気にする会」が設立され、「町おこしメンバー」を募集中です。

久喜市営釣り場 改善について



渡辺まゆみ

問 久喜市営釣り場経営は年々悪化している。利用者は、前年比1957人、収支決算では633万円以上のマイナス決算であり、それを指定管理者であるシルバー人材センターが負っている現状は見直すべきである。どのような協議をしているか。利用客の減少については釣り場外網の修繕、ブルーギル(魚名)の駆除をしっかりと行い経営改善をすべきだがいかがか。

答 シルバー人材センターとは月1回開催し、減少対策の協議もしている。何とか利用増を現場の声を聞きながら図っていききたい。

清久工業団地周辺地区の開発について

問 地元住民に対する大気汚染、排水、騒音、臭気などの公害についてどのように考えているのか。備前前堀川の計画的なしゅんせつと、地元の水路から接続する部分の排水の管理をしっかりとすべきである。

答 月1、2度行う定期パトロールをし、原因が出た場合には行政指導を行う。水路等については、地元区長さん、代表の方と現地を見ながら対応していく。

予算議会

一般質問 つづき

市内の公園整備 と管理運営について



木村ともり

久喜市内の公園整備が不十分で、とくに子どもを持つ母親からの整備と管理・運営をしっかりとやってほしいとの要望を受け、質問をしました。従来から要望が出されていた住宅密集地での公園の新設、また公園の芝生刈りや遊具、植栽の手入れなど具体的な改善策の提案を合わせておこないませんでした。

合併後の久喜市全体の公園整備では、栗橋駅周辺など計画が進んでいる反面、旧久喜市の西側での計画は脆弱、今後の中長期の計画のもとで進める必要があります。また公園の芝生刈りや遊具の点検など今後取り組むことを約束しました。

生活関連道路の整備と側溝の拡充を

生活関連道路はまだ多くの個所で舗装がされていないこと、今後4メートル以内の道路舗装は基準を設け、視野に入れるべきと主張しました。また、側溝の整備とふたかけが出来ず、長年にわたって要望が地域から出されている栗橋や古久喜・野久喜(旧久喜市)について具体的に指摘し、今後調査することになりました。

わしみや団地内の大雨は 青毛堀川への導水で対策を



杉野おさむ

杉野：わしみや団地2・3街区、特に銀の笛幼稚園の周辺は大雨時の冠水、浸水被害が最大の環境問題だ。なんとしても解決を図る必要がある。周辺が冠水する前に雨水を「導水管」で青毛堀川に落とし込む対策はできないか。

建設部長：導水管は埋設のスペースの確保と費用に問題がある。この地域の雨水排水は経路も複雑で、排水しても逆流して戻ってきている。しかし、行政としても地域全体をとらえたエリア的な排水に向けた検討を急ぎます。

アレルギーを持つ児童の 「誤食事故」を防げ

杉野：久喜市でアレルギーを持つ児童生徒の実態把握は。

教育部長：小学生102人中中学生35人、弁当持参は小学生32人中中学生3人。内容は医師の診断書で把握をしている。

杉野：誤食防止のための情報共有や訓練なども教職員全体で取り組むことが重要だが、どのように進めていくか。

教育部長：その児童生徒が「食べてはいけない食品」については、調理場から全職員に至るまで指示書を周知しています。代替え食品には「白いシール」を貼って区別している。誤食した場合のエピペン接種訓練もしています。